



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<https://www.kodomonono-mori.net> mailto:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2022年 3月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



3月16日(水)の深夜、福島県、宮城県を中心とした大きな地震が発生しました。

被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

「東日本大震災」から11年目となる3月に発生した地震は、
あらためて、油断のない防災を心がけることへの戒めとしたいと思います。

ご共感いただければ幸いです。

(写真は、静岡県「エンゼル幼稚園」さんで育てられているどんぐりです。)

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動 2022年度の活動計画
2. 参加園活動レポート
3. 事務局からのお知らせ
4. リレーエッセイ (2022年 3月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。
しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

(公社)大谷保育協会

保育環境研究所ギビングツリー

(公社)国土緑化推進機構

NPO法人 富良野自然塾

(公社)こども環境学会

国際校庭園庭連合日本支部

(一社)日本森林インストラクター協会



1. JP子どもの森づくり運動 2022年度の活動計画

2021年度が終わり、また新しい年度が始まります。2021年度も、JP子どもの森づくり運動は、皆様のご協力のおかげで着実に成果を積み上げさせていただきました。2022年度も、その成果を踏まえて、さらに活動を展開してまいりたいと思います。子森通信の3月号では、2022年度の活動について概要をご案内します。共有いただけますようお願い申し上げます。活動の詳細は、次月号にてご案内します。

●「東北復興グリーンウェイブ」～拡がる“どんぐりの絆”～

2022年には、岩手県宮古市に、新しい東北のどんぐりの植樹フィールドが生まれます。東北と全国の子どもたちをつなぐ「どんぐりの絆」が今年も拡がります。

- 1) 岩手県宮古市の旧市庁舎跡に、どんぐりの苗木が植えられます。
- 2) 岩手県宮古市、山田町、大槌町合同の植樹会が、大槌町で開催されます。子どもたちは、復興の象徴である三陸鉄道の「どんぐり列車」に乗って植樹フィールドに集まります。（写真：「どんぐり列車」のヘッドマーク）
- 3) 福島県「伊達こども園」において、今年も園庭にどんぐりを植える活動が予定されています。



●自然・環境体験活動 ～一緒に考えよう！ぼくとわたしのSDGs～

今年も、子どもたちの“生きる力”と“環境の心”を育む自然体験活動と環境教育を推進する「自然・環境体験講座全国キャラバン」を積極的に推進します。

- 1) 今年のキャラバンは、子どもたちにSDGsの心をお芝居で伝える「どんぐりSDGs劇団」とコラボした連携企画も実施します。
- 2) 保育における自然体験活動と環境教育を考える夏期集中オンライン講座を実施します。
- 3) 「子森通信」で、「幼児(少)期の環境教育」をテーマに、北海道教育大学 能条 歩先生による1年間に渡る連載企画が始まります。



●園庭緑化運動

2年間に渡るモデル園活動の成果をふまえ、さらに園庭緑化の活動を拡げます。

- 1) 「園庭緑化運動」2年間の活動をとりまとめた冊子を活用した、研修講座を実施します。
- 2) 園庭緑化運動の潮流化を目的に、運動の意義や方法について学ぶ、年間4回程度のオンライン講座を実施します。
- 3) モデル園における園庭緑化の活動サポートを継続します。



●保育防災

保育防災の取り組みは不断の活動です。今年度も認定講座を継続します。

- 1) 「保育防災アクションマイスター認定講座2022」を運営します。
- 2) 「保育防災アクションマイスター」全国連絡会（仮称）を設立し、マイスターが実践する保育防災の知見を蓄積します。
- 3) 年度末を目標に、保育防災認定講座の概要、さらにその後のマイスターの実践的な活動をとりまとめた冊子を作成し、JP子どもの森づくり運動参加園にお届けします。



2. 参加園活動レポート

今井保育園（千葉県）「東北復興グリーンウェイブ2021」東北のどんぐりを見送る活動

・日時：2021年5月28日(金) ・場所：自園

* 以下、園からお送りいただいたドキュメンテーションによるレポートです。



3. 事務局からのお知らせ：「保育防災アクションマイスター認定講座」2022年度受講生募集中

「全国集会＆研修会2022」において、「保育防災アクションマイスター」の1期生が認証され、2021年度の講座が終了しました。J P 子どもの森づくり運動では、保育防災の活動は、保育において継続していかなければならない最優先の活動と考え、現在、下記の概要で保育認定講座の2022年度受講生（2期生）の応募を受付ております。“本当に子どもの命を守るための活動”です。多くの皆様の応募をお待ち申し上げます。

（写真：2021年度講座実施風景）



【「保育防災アクションマイスター認定講座2022」受講者募集要項】

- 1) 運営：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
- 2) 運営協力：(株)タフ・ジャパン
- 3) 実施期間：2022年4月～2023年3月
- 4) 講座概要：原則、年6回のOnlineによるワークショップ形式（WS）形式で進行
- 5) 講師：消防庁防災アドバイザー (株)タフ・ジャパン 代表取締役 鎌田 修広氏（写真講師）
- 6) 募集人数：各園2名までを資格認定対象者として上限12園（24名）（先着順）
- 7) 募集締切り：2022年4月8日(月)
- 8) 主催・応募方法：ホームページにてご案内しております。⇒ <http://www.kodomono-mori.net>



4. リレーエッセイ (2022年3月号)

リレーエッセイ2021年度のアンカーとして、2022年1月～3月の期間を、子森ネットの理事である、福井県大野幼稚園の藤 兼量 園長先生にご担当いただきます。より良き保育・幼児教育を実践する保育者であると同時に、全国の保育者をサポートするNPO 理事としての立場でメッセージをお送りいただきます。今月号で、最終回のエッセイです。

『本当のことを中心とした保育 3』

認定こども園 大野幼稚園 園長 子森ネット 理事 藤 兼量



私たちは『本当の保育』を目指して日々研鑽を重ねてきましたが、『本当の保育』の実現は不可能なことなのかも知れません。なぜならば、『本当のこと』によって照らし出された私の姿は、『本当のこと』に背を向けた在り方を明確に表しているからです。幼児期の『自然体験』の中で、子どもたちは様々なコトやモノに『不思議さ』を感じ、驚きを持って目を輝かせる瞬間があります。このことは、『自然体験』を通して『本当のこと』に出会い、それまでの自分が覆される瞬間なのだと思います。それは、『本当のこと』に背を向けた在り方が明確になる瞬間でもあります。

保育現場に於いても、私たちは子どもたちの生まれながらにして持っている『本当のこと（真実）』に出会う度に、自分の思い込みや当たり前と思っていたコトがしばしば覆されます。そのつど困惑し、途方にくれる経験も数多くしてきました。しかし同時に『本当のこと』に背を向けた在り方の私が『本当のこと』に包まれ、励まされて存在していることに気づかされるのです。『全ての存在は無条件に、平等に大切な存在である』ことが知らされてくるのではないのでしょうか？ 私自身もその大切な存在だと。そこには『本当のこと』から呼びかけられている『願い』があります。その願いを子どもたちと共に確かめてゆく営みを『本当のことを中心とした保育』と呼んでも良いのではないのでしょうか？

これまで様々な自然体験活動を通して多くの方々と出会うことができました。その誰もが『本当のこと』に包まれ、励まされ、その『願い』を確かめる営みを精一杯続けておられる方々であると思います。特に今年度、リレーエッセイにご執筆いただきました先生方からは、共に『本当のこと』に出会ってゆく『仲間』として、私たち子森ネットと関わっていただき、多くの大切な示唆をいただいたことです。



また先般の「全国集会」のパネルディスカッションでは、北海道教育大学の能條生を始め、多くの先生方と意見交換の機会をいただき、改めて『自然体験』を通じた『環境教育』として、子どもたちと共に確かめてゆく営みを続けてゆく大切さを確認することが出来ました。心より御礼申し上げます。

今後の課題としては『幼少期の自然体験』をどのようにして生涯を通じた『環境教育』としていけるのかという視点を大切に、様々な方向から、従来の事業を見直しつつ、さらに工夫をした取り組みとして活動を行きたいと思っています。

*【予告】2022年度リレーエッセイについて

2022年4月からのリレーエッセイは、「幼児(少)期の環境教育」をテーマに、北海道教育大学教育学部 岩見沢校アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩（あゆむ）先生による1年間、12回に渡る連載をお願いしました。幼児(少)期の環境教育の意義や方法、さらにSDGs等、様々な観点からご寄稿いただきます。どうぞ楽しみに。（写真：能條先生）

